

## 「政策立案能力」の育成方法を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

①「ボローニャにかぎらずヨーロッパのさまざまな都市を巡り思うことは、『経済成長』と『豊かさ』は、次元の違う問題ではないか。たとえ、経済成長率というマクロの指標が悪くても、地元の産業がしっかりしていれば、人々は生活をエンジョイできる。『豊かさの実感』はより多く地域の経済循環に根差したものである。

この地域の経済循環を実現するには、むろん一極集中の経済構造では不可能である。地場産業とそれを支える職人の伝統、政治への参加意識、安価な日常品を流通させる地元のネットワーク、既成の価値観にとらわれない学問の伝統、こういった多元的な価値基準に支えられてはじめて、地域の豊かさが実現するのである。

ヨーロッパの街を歩いてみて感じるのは、中小都市を中心とした地方分散型の豊かさこそ、ヨーロッパの政治経済が目指す最も高い目標だという点である。」

\*以上、竹内佐和子著「21世紀型社会資本の選択」(4～5ページ)山海堂1999年4月2日刊(1900円)より引用。

②「福祉国家への移行とともに、公共事業予算が減少する傾向は欧米諸国では早くから顕在化してきた。」(前著16ページより引用)との認識のもとに「地方の生活の豊かさと快適さをつくり上げていくためには、景気対策などの『中央』が発表するマクロ政策の動向に一喜一憂せず、地方の中核都市と周辺の地域の特色を生かした地域経済のあり方、地域文化に根差した産業構造を戦略的に考える必要がある。その方法論の確立が、日本の地方分権の出発点になるべきだ」というのが著者の主張である」。(前著14・15ページより引用)

③不況と高齢化社会の到来とで、公共事業への予算を削減せざるをえない。いや、今までつくった施設のメンテナンスや改修、つくりなおし(更新)のお金も出なくなりそうなのが現状ではないのか。では、どうしたらよいか。切れ味するどい解答の一つは竹内先生の前掲書に詳細に述べられているので、是非お読み頂きたい。

ただ、減り続ける財源で「豊かさ」いっぱいの「特色ある地域づくり」を実際にするには、「政策立案を志す人」の「政策立案能力」を育てることが緊急テーマとなる。そこで、今回は「政策立案能力」の育成方法を考える。

### 2. 政策立案能力を身につけるには

①「政策」についてのテキストがこの4～5年、日本でも出始めた。まずはコツコツと読むことが大事だ。

(ア)宮川公男著「政策科学入門」1995年12月東洋経済新報社刊(2800円)は代表的な教科書。やさしく、ていねいに書いてあるから、2～3回ゆっくり読めば、「政策」の何たるかはわかる。

(ア)をよく読んでから次の(イ)にすすむと、ジワーと「政策」が身につく。

(イ)阿部孝夫著「政策形成と地域経営」1998年8月学陽書房刊(2400円)。高校1年生が読んでもわかるほど、ていねい、親切に書かれている好著。

(ウ)草野厚著「政策過程分析入門」1997年4月東京大学出版会(2500円)をテキストとして2～3回読んだ後、信田智人著「官邸の権力」1996年12月筑摩書房刊(ちくま新書)をゆっくり読むと「政治」の場における「政策」がどのように形成されるかよく判る。

(エ)スティグリッ著「公共経済学(上)(下)」1996年東洋経済社刊(3500円)は、「政策」を考える上で避けて通れない「公共支出」や「租税」について詳しく論じている。加藤寛編「入門公共選択」1999年1月三嶺書房刊(3500円)も必読かも。

(オ)青木昌彦他著「市場の役割・国家の役割」1999年4月東洋経済新報社刊(2500円)は、超有名な同編著「経済システムの比較制度分析」1996年東京大学出版会刊(3200円)よりはるかに読みやすく、又、同編著「東アジアの経済発展と政府の役割」1997年日本経済新聞社刊(5700円)と合わせて読むと、国家とは何か、市場とは何かがよく分かる。ここまで目を通せば、あとはハイエクの「隷属への道」(春秋社他刊)他を残すだけになる。マルクスは読んでもハイエクはほとんど読まないのが多くの日本の知識人だが、マルクスは余り読まなくても、ハイエクは読み尽くしている人を多くの国で見かけた。海外に行ったときに、「政策」を考えるのに、どの本が一番いいか多くの人に質問したら「ハイエクだよ」との答えが最も多かった。「日本ではハイエクの本を読んでいる人は余り多くないよ。私も読んだことがない。」と言ったら、まわりにいた人全員がほとんどあきれ果て、「では本屋につれて行ってあげよう」と書店につれて行かれ著書を示されたこともあったほどだ。ハイエクは避けて通れないかも知れない。

\*「お茶飲み話し」「単なる思いつき」や「意見発表」を少しこえ、本格的な「政策」を腰を落ち着けて立案するには、難しいかも知れないが、コツコツと「政策」の何たるかをいろいろな角度から深く勉強することも大事。その意味で、何冊か基本図書と思われるものを紹介させて頂いた。(1冊を2～3回読む事をお忘れなく)

(力)PFIの本も出始めたので何冊かお読み頂きたい。

②本を読んで勉強を深めると同時に、「政策」についての勉強会に参加することも意味深い。勉強会なら「政策分析ネットワーク」がおすすめかもしれない。大学や民間シンクタンクの政策研究者、政策立案の実務を担う官僚、政治家らが交流する新しい「学会」で、この4月24日(土)に慶応大学三田キャンパスで発足した。学生も加入できる。私も出席した。設立準備委員会代表の竹中平蔵慶応義塾大学教授は「新組織を通じて政策研究を活発にし、多元的な政策研究の仕組みを日本に定着させたい」と話している(日本経済新聞4月19日)。本年12月3日(金)と4日(土)には中央大学駿河台記念会館(JR お茶の水駅下車)で「政策研究の見本市」(政策分析ネットワーク・カンファレンス)が開かれる。「政策立案能力」をみがこうという「高い志」と元気のある方は、どんどんとこの「政策分析ネットワーク」のような本格的な勉強会に参加、切磋琢磨すべきと思う。

\*問い合わせは.国際研究財団研究事業部(TEL/O3(3502)9438)まで。

③もっと深く勉強したい人は、大学や大学院.シンクタンクの門をたたくとよい。

(ア)「政策研究大学院大学」がいよいよ来春から学生を取りはじめる。埼玉大学大学院政策科学研究科が発展したものだと聞いたことがある。大学院で政策の勉強をしたいと思う方にはおすすめかもしれない。

\*問い合わせは、政策研究大学院大学(TEL/O3(3341)0224)まで。

(イ)東京の表参道の青山学院大学の前に「国際連合大学」(国連大学)がある。世界の人々と「政策」の勉強がしたければ「国連大学高等研究所」UNITED NATIONS UNIVERSITY INSTITUTE OF ADVANCED STUDIESの学生になるか、興味のあるセミナーを聴きに行けばよい(但し、すべて英語)。

\*問い合わせは、国連大学(TEL/O3(5467)2323)まで。

④注意深く新聞や雑誌を読んでいると「政策立案能力」を高める記事や論説を毎日いくつか切り抜ける。

例えば、日本経済新聞は、4月の中旬から5月12日まで「経済教室」のページに「政策評価の手法-新行政システムの時代」(新行政システム研究会著)を20回連載した。おどろくべきことだ。この「みにむ」をお読みの方で「政策」に興味のある方は、図書館に行き、日経新聞のこのコーナーだけでもコピーさせてもらい、じっくりお読みになることをおすすめする。

\*欧米、とりわけアメリカでは「シンクタンク」が中央や地方の「政府」が打ち出した「政策」を「事前」「途中」「事後」徹底的に「評価」する。資金は市民が募金を集め、不足分は、財団や政府が出していると聞く。厳しい「評価」に耐えうるような「政策」を出しつづけてこそ、はじめて「税金」を使うことができるようだ。

⑤(ア)政策を「書く訓練」をすること。「政策執筆能力」を自ら養うことも大事だ。

テーマをしばらくこみ伸び伸び思い切って書いてみる。一本書ききいたら、どうそれを実現化するか、「プロセスを示す政策」もどんどん書きすすめること。

\*周りにいる人は、本人が書き終るまでは、途中で意見は言わない方がよい。本人も他人に途中で「政策」を見せない方がよい。最後まで自らの力で書き上げ、何回も自らの力で書き直した後、意見やアドバイスを求めた方がよい。(途中で厳しい意見をもらおうと萎縮してエネルギーが出なくなってしまう人が多いからだ。)

(イ)「シナリオ・プランニング」の手法も勉強すると、政策を執筆する際説得力が増す。

\*日本についての中前忠編著「三つの未来」1998年8月 日本経済新聞社刊(1600円)と、世界についてのアレン・ハモンド著「未来の選択」1999年1月トッパン刊(2520円)の2冊のシナリオ・プランニングは力作。特に、前著には考えるヒントが数多く含まれる。

(ウ)うまく書けたら、次はどのように広めるかを考える。「出す時期」や「もっていき方」も大事だ。

(エ)「本当の幸せ、本当の豊かさとは何か」のみならず「公平」「公正」「透明性」の確保も常に頭におくこと。

### 3. おわりに

①私は「群馬経済同友会」に、入らせて頂いている。そこで毎年4月に「群馬県予算説明会」を群馬県より受けている。予算の使い方がわかり、とても勉強になる。私は「栃木県経済同好会」にも入ら

せて頂いている。そこでも昨年より「栃木県予算説明会」を栃木県よりして頂いている。群馬県と同様とても勉強になる。そこで提案だが、皆さんも所属する団体を通して各市町村にお願いして、年に1回各市町村の予算書や決算書を担当の方から説明して頂いたらどうか。1時間半くらいかけて各項目をゆっくり説明してもらおうと、税金の使い途がわかり、納税意欲も高まる。又、使い途について行政や議会に意見があれば、手続きをふみ「請願」等をすればよい。

②都合で行政ではやってくれないようなら、知り合いの議員さんにたのんで予算書の説明をして頂くと議員も勉強になる。市民が、予算書や決算書に興味をもち、読み込むようになれば、必ずその街は発展すると思う。

5月12日記